

閉じる

印刷

---

日付: 2006-12-31 タイトル: 第2研究委員会

一般的な社会生活において、人間は成長するに従い、進学・就職とその選択肢が広がるたびに悩み、そしてその都度決断し、自分の人生を確認しながら生きていきます。それが、あたりまえに、普通に生きるということではないでしょうか。しかし翻って「障害者」の世界を眺めたとき、成長に伴って選択肢は狭まっていくのが「あたりまえ」になってはいないでしょうか。第2研究委員会(地域生活支援研究会)では、この「あたりまえに、ふつうに生きる」ということに焦点をあわせて地域生活の支援をずっと考えてきています。支援費制度を核とした障害者福祉分野の基礎構造改革では、契約と自己選択が重要な理念として語られ、あたかも自由かつ対等なサービス選択が実現するものと思っていた人もいらっしゃるでしょう。しかし、この4月から号砲一発スタートした新制度ですが、多くの関係者が周囲の出方を見ながらの序盤戦、いったい何が変わり、何が変わらなかったのか、よくわからない部分も多いのではないのでしょうか。そして、今だからこそ、少なくとも制度上の変化ではない、実質上の変化があったのか無かったのかについて、冷静にしかも見通しをもちつつ検証していくことが大切のように感じます。しかしながら、この第2研究委員会にどうぞさまざまな人たち(支援者・当事者)は、地域生活支援を制度の側面からのみ語るのではなく、生身の人間と人間の関係性をいかに作っていくのか、という視点から研究をスタートさせていくべきだと思います。そしてその関係性の広がりの中から「あたりまえの暮らし」を地域に作っていく推進力として、生活の支援を展開する必要があるのだとも思います。今年の第2研究委員会も、あたりまえのことをあたりまえに語り、考える場として活動を続けていきます。さまざまな立場の方々の参加をお待ちしています。連絡先: 山田隆史 yaa-san@ac.cyberhome.ne.jp

---

Copyright © NPO法人全国障害者生活支援研究会 All Right Reserved

閉じる

印刷